

特集

〈事例〉

就業事例と五つの講座で構成 関心の高さに手応えを得る

公益社団法人
秋田県シルバー人材センター連合会

(秋田県)

秋田県SC連合会は、令和6年11月16日に「輝き続ける女性のためのワークショップ～シルボンヌ地方大会 in 秋田～」を開催した。本大会は体験や交流を重視して五つの講座から成るワークショップを主体に構成した。当日は、100人近くの参加者が県内各地から集まる盛況ぶりで、「自分にも何かできるのではないかと希望が持てた」といった感想も寄せられ、手応えが感じられる大会となった。

県内から約100人が参加

秋田県SC連合会（以下、連合会）は、令和6年11月16日13～16時、JR秋田駅近くのANAクラウンプラザホテル秋田で「輝き続ける女性のためのワークショップ～シルボンヌ地方大会 in 秋田～」を開催した。

本大会は県内在住の58歳以上の女性が対象で、年齢を重ねても生き生きと活躍している女性の姿を、より多くの人に知ってもらいたいという思いから開催した。公益社団法人全国シルバー人材センター事業協会が主催し、企画・運営は連合会が担当した。

当日は、県内各地から参加者99

人（会員7人、一般市民92人）と県内外のセンター関係者約20人が集まり、会場はほぼ満席となった。熱気を帯びる中、司会進行役を務める連合会の大山開総務主任の開会宣言で幕が開いた。

あいさつに立った連合会の小松賞会長は、来場者に感謝の言葉を述べた後、「シルバー人材センターで働く会員は、各地で地域社会に貢献しています。今後も信頼される組織であるよう、会員の輪を大きく広げていきたい」と抱負を述べた。

続いて、連合会の茂木重雄専務理事兼事務局局長が登壇。働き方や事業内容など、シルバー人材センターの概要を述べた。また、「全国

で最も高齢化率が高い当県を、地域全体でどう支えていくか。多くの人々が何らかの形で社会参加することが大事だと考えます。本日の大会が、社会参加について考えるきっかけになればと願っています」と参加者に呼び掛けた。

女性会員による就業事例発表

続く13時15分からの就業事例発表では、2センターから1人ずつシルボンヌ（女性会員）が登壇し、センターに入会して感じていることや就業内容、生きがいなどについて話した。

由利本荘市SCの佐藤とよ子さんは、63歳で会社を退職した後、障子を張り替える仕事をしたとい



ANAクラウンプラザホテル秋田の会場には、100人近くの参加者が集まり、関心の高さがうかがえた

センターに入会して8年目を迎える。週3日で、1日6時間程度就業している。

就業について「現在は私を含めて3人で障子や襖、網戸の張り替えをしています。依頼者から『きれいになった』『ありがとう』という言葉をもらえることが、やりがいにつながっています。ずっと続けられるように健康管理に注意して、必要とされるような丁寧な仕事をしたい」と語った。



会員になってからの感想や就業体験を語った由利本荘市SCの佐藤とよ子さん(写真上)、男鹿市SCの杉本千鶴子さん

加えて「先日行われたクラウドゴルフ大会では、会員同士で交流を深め、楽しい時間を過ごしました。これからもセンターを通じて、仕事、遊び、学びを楽しんでいきたいと思っています。入会を考えている人はぜひ会員になって、自分が生き生きとできる仕事を、いろいろなイベントにも参加して楽しんでほしい」と語り、柔らかな表情を見せた。

続いて登壇した男鹿市SCの杉本千鶴子さんは、55歳で仕事を辞

めた後、60歳の時に知人の紹介でセンターに入会して17年になる。「仕事は、地元の海水浴場でのトイレ掃除と隣接する駐車場の清掃です。もう1人の会員と2人で6〜10月まで、週1〜2回の頻度で行っており、使用する人が嫌な思いをしないようにと心掛けています。2人で楽しく働けていることが長く続けられている理由だと思います」と語った。

「センターの仕事を通して、いろいろな人と知り合いになり、見

聞が広がりました。センターにはさまざまな仕事があり、意欲があれば生涯現役で働くことが可能ですし、ボランティア活動やイベントに参加することで仲間もできます。この大会を機に入会を検討してほしい」と笑顔で語り、参加者に入会を促した。

事業所による活用事例発表

13時25分からシルバー人材センターを活用している事業所の事例発表に移った。

学校法人山王学園が運営する幼保連携型認定こども園、山王幼稚園・保育園の鈴木巧園長が登壇した。同園には、秋田市SCから会員5人が派遣されて就労しており、保育補助や清掃、学童保育補助、送迎車運転業務に従事している。

鈴木園長は「幼稚園・保育園で2人、それぞれ週3〜4回、1日4時間勤務で消毒作業やおむつ交換の補助などのサポート業務を担っていただいています。園では学童

保育も行っているため、その補助で1人、週4日で1日3時間30分の勤務をしてもらっています。送迎車運転業務は2人にお願ひし、週5日で、1人は1日3時間、もう1人は1日2時間勤務です。職員からは大変助かっていると聞いています」と就労状況を紹介した。会員の就労に当たって配慮していることとして、①時間帯や曜日など、できるだけ希望に添うように調整すること、②経験や得意分野が生かせる仕事に配置すること、③対話のできる環境を大事にすることの三つを挙げた。

また、就労している会員の声として「希望に合った曜日と時間で無理なく働ける」「子どもの屈託のない笑顔に元気をもらっている」「仕事をすることで、普段の生活にも張り合いが出る」「子どもの成長に関われるやりがいのある仕事だと思ふ」といった感想が紹介された。

さらに鈴木園長は「会員の皆さま

図表 ワークショップ一覧

①メーキャップ講座

講座内容：日常生活で活用できるセルフメイクを学ぶ
所要時間：約2時間、定員：20人

②フラワーアレンジメント講座

講座内容：切り花を使ったドーム型アレンジメントを作成
所要時間：約1時間、定員：40人（各回20人）

③ポーセラーツ講座

講座内容：転写紙を使って絵付けをし、自分だけの皿を作成
所要時間：約2時間、定員：10人

④定年退職後の生活設計講座

講座内容：定年退職後の生活設計についてファイナンシャルプランナーが分かりやすく解説
所要時間：約1時間、定員：40人（各回20人）

⑤スマホ講座（電話・メール以外の基礎基本編）

講座内容：電話やメール以外の基本操作を分かりやすく指導
所要時間：約1時間、定員：40人（各回20人）

※受講は事前申込制

んは就労を通して子どもたちを

えてくれています。それは親たちを支えていることにもなります。

親を支えることは人手不足解消の

助けになることであり、地域社会を支えることにもつながっている

と思います。今後も、皆さんと綿密に連携しながら保育サービスを提供していきたいと思ひます」と

締めくくった。

ワークショップで五つの講座を開催

13時50分からは会場を移し、ワークショップとして五つの講座を開催した（図表）。講座では外部から招いた講師が指導に当たった。

メーキャップ講座で、講師から



メーキャップ講座

メイクのこつを教えてもらった受講者は「勉強になった」「楽しかった」とうれしそうに話した。

フラワーアレンジメント講座では、切り花でドーム型のアレンジメントを作成した。「ポイントを教わり、何とか形になってうれしい」と喜びの声が上がった。

転写紙を使って皿へ絵付けをするポーセラーツ講座では、「難しかったが、面白かった」などの感想が聞かれた。

定年退職後の生活設計講座では、



フラワーアレンジメント講座



ポーセラーツ講座



定年退職後の生活設計講座



スマホ講座。各講座では、受講者が講師の話に熱心に耳を傾け、真剣に学ぶ姿が見られた

手応えのある大会に

大会を企画・運営した連合会に

講師の言葉に聞き入り、メモを取る受講者が多くいた。
スマホ講座では、翻訳アプリなどスマートフォン便利な活用方法が紹介され、早速試している受講者もいた。

各講座の所要時間は約1〜2時間となっており、ワークショップの終了とともに、本大会は16時で閉会した。

よると、地元ではシルバー人材センターの知名度は高いものの「屋外での単純かつ肉体労働」というイメージが強い。それが会員拡大の阻害要因の一つになっているという。本大会は一人でも多くの高齢者にセンターに興味を持ってもらえるように、実際に体験したり、交流したりできることを重視してワークショップを主体とした構成にしたという。新聞折り込み広告やテレビCMなどでワークショップの受講者を募集したところ、定

員の2倍以上の応募があり抽選になった講座もあったという。大会の参加者に行ったアンケートによると、「実際に働いている会員の様子やセンターの活動内容を知れて良かった」という声のほか、「とても参考になり、視野が広がった」「自分にも何かできるのではないかと希望が持てた」など前向きな感想が寄せられた。

連合会の大山総務主任は「参加者が100人近く集まってくれたことに手応えを感じました。再開を希望する声も多いことから、今後は県内のセンターと連携して、それぞれの事情を反映した会員拡大策を検討・実施できればと考えています」と大会を振り返りつつ、今後の方向性を語った。

(増山美智子)